



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2023～2024 年度 テーマ

プロバスだより

第335号

2023 年 10 月 12 日発行

編集・発行 情報委員会

楽しみながら学び合い、支え合おう

第 335 回例会

日 時 令和 5 年 9 月 14 日 (木) 12 : 00 ~ 14 : 00

場 所 八王子エルシィ

出席者 33 名 出席率 75%

(会員総数 48 名、欠席 11 名、休会 4 名)

1. 開 会

井上例会副委員長

第 335 回例会を開催します。本日の出席者数は 33 名、出席率は 75% です。

2. 会長挨拶

持田会長

9 月になりましたが、相変わらず暑い日が続いております。しかし、コロナ感染やインフルエンザ、そして熱中症にかかっている人が私の周辺でもおります。是非、油断せず気を付けて下さい。



さて、今年度に入り 7 月例会は定期総会があり、南ロータリークラブの来賓を迎えました。8 月の例会は友好クラブの埼玉浮き城プロバスの来賓を迎えました。賑やかな二月を過ごしました。そして 9 月になり久しぶりに通常の例会開催になりました。今月の例会よりクラブ会員の卓話が始まります。ここ数年に入会された会員のお話を聞くことができます。是非楽しみにして下さい。楽しみ、学べる例会にしたいのです。

最近の当クラブへの関心度を示すひとつにホームページへのアクセス件数があります。7 月が 712 件、8 月が 634 件と以前の 300 ~ 400 件レベルから大幅に増加しております。アクセス件数の増減には諸説ありますが、その要因を私は当クラブが全日本プロバス協議会の会長クラブに昨年なったことが関心を高めたのではないかと推測しております。田中会長と

一瀬幹事長が熱心に毎月各地域のプロバスクラブを訪問して交流を深めておりますことが大きな要因であらうと思っております。

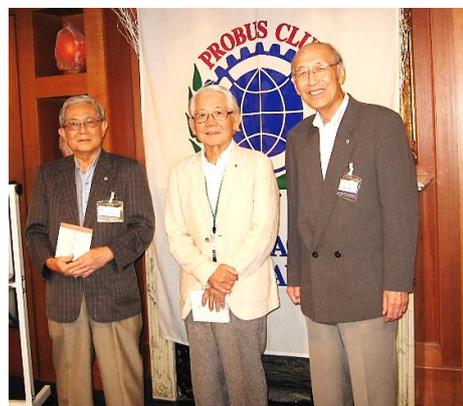
ここで、幸い全国から関心を持たれることとなったことを機会に、当クラブとしては、年度の諸活動計画を実施して見える形で成果を出していかなければなりません。そういう意味では、今年度 (2024 年 3 月) のメイン・イベントである音楽祭 (合唱支援まつり) の開催は是非成功させたいと考えております。そしてサロンに代わる新しい音楽イベントとして定着させたいものです。皆さまのご協力をお願い致します。

3. ハッピーコイン披露

塚本副会長からハッピーコイン 12 件の披露がありました。(4 ページに掲載)

4. バースデーカードの贈呈

9 月生れの会員に池田会員手作りのバースデーカードが贈られた。



写真左から、馬場会員、野口会員、会長

5. 卓 話

運動神経の発達する注射

泉 道夫

プロバス新入会員の卓話第一弾としてお話しさせ

ていただきます。

その前に、この前の日曜日に初めて「宇宙の学校」に参加致しましたが、子ども達の生き生きとした姿、中学生達が熱心に教える姿には感動しました。はからずもコーチングのお手伝いをさせられたのですが、私自身達成感を覚えたものです。未経験の方がおられれば是非一度参加されたいと思います。



さて、本題ですが、私は昭和 25 年に鹿児島県で生まれました。現在 73 才であります。父の仕事の関係で転勤が多くその度に小学校も転校となりました。教科書も変わり成績も落ちることになるのですが、ただ体育という教科だけは小中学校を通じた 9 年間、5 段階の 5 を通すことができました。その「わけ」が今日のお話のメインテーマなのであります。

私がまだ 4 才か 5 才のころ、母親が子供達に昔話をしているときに「道夫は（私のことですが）小さいときに鼻がよくつまることがあった。ある時とうとう呼吸困難になってしまったので、あわてて親戚の医者に来てもらい、試しにということで一本の注射を打ってもらったら、不思議なことに鼻のつまりもとれ、熱も下がって元気になったんよ」「そりゃ何という注射だったの？」と聞くと、「確か……運動神経の発達する注射……だとその医者が言っていた」というのです。

この言葉がいつのまにかしっかりと幼心に刻み込まれ、自分は人とは違う、運動で他人に負けることがあってはならない。なぜなら「運動神経の発達する注射」を打っているんだから……成績で一番をとれないことより運動会で一等になれないことが私にはよほど屈辱でした。そのため事前に練習も一生懸命やって結果は一等賞になる。そうやって運動で脚光を浴びると自信がついて学業の方でも頑張れるようになる……という好循環が生まれ、その後中学からは東京に移りましたが、転校生の悲哀というものをまず味わうことなく無事過ごして来れたのだと思います。

そういうことで私のスポーツ履歴は、小学校で相撲や野球、中学では卓球、高校でサッカーと続き、大学では体育会合気道部の主将までつとめること

になりました。

社会人になってからスポーツは月一のゴルフくらいでしたが、会社を卒業した 65 才からは再びテニス・ゴルフに邁進し、今では一週間の大半 5~6 日は外で体を動かし、汗を流す生活を続けております。ここまで健康でいられたのも、あの母の一言があったからだをつくづく感謝している次第であります。

言葉のありがたさということで、私のドイツ駐在時代のながい出張の思い出を少しお話しておきます。～（イタリアからユーゴスラビア（当時）のリエカという港町までのチビで禿げたイタリア人運転手との旅、その終わりに国境の土産物屋でドイツ語に包まれほっとした体験を披露）～

ただいつかは体が動かなくなった時に備えて、数年前に仏像彫刻教室に通い始めました。最初は単純練習ばかりで気合いが入らなかったのですが、途中でライバルが登場してからは真剣に取り組みました。まじめにやるとトコトンはまってしまい、一時期は寝るのも忘れるほど集中したものです。ただコロナで教室が閉鎖になったため、今はやっておりません。今日その仏像を持ってきましたので、未熟段階のものでご興味あればご覧下さい。

そう言えば、偶然ながら今日 9 月 14 日はこの母の命日でした。大正 12 年生まれでしたから生きていれば今年 100 歳でした。その日にこうやって母からの一言のお話しが出来たのも何かの縁だったのかも知れません。

本日はこのような機会を作っていただきありがとうございました。

6. 幹事報告

塚本副会長・代行

齋藤幹事さんが本日欠席ですので副会長の私から報告をさせていただきます。

理事会は会長の基本コンセプト「楽しみながら学び合い、支え合おう」に近づく気持ちを持って議論を交わした会でした。

(1) 「小・中学校合唱応援祭り」として今までの合唱祭を開く方向で進めております。今のところ市内の小中で 6 校が参加予定、プロバスでは 8 校にてこのイベントを開催したいと市内の私立学校を含め小・中に呼びかけているところです。

(2) HP アクセスが最近多くなり 700 件を超える状

況です。この状況はプロバスへの関心度が高まっているとも取れますのでこの機に理事会で諸条件を基にたたき台を作り、さらに情報委員会にて煮詰め、バージョンアップして、質の高い良い内容にしていく方向で、HP を充実していくことになりました。

(3) 八王子プロバスの会を運営するには、規程を基に進めておりますが、その規程の見直しを理事会の中に規程小委員会を置き、規程内容を今の会の状況などを見、検討し、今期中にまとめ改定を含め、現実にあった整えた内容の規程にしていく。理事会としては、どうしたら八王子プロバスがさらに充実した会となり会員の向上につながるかを真剣に協議しています。会員皆様のご理解ある温かいご協力をお願いします。

7. 委員会活動報告

(1) 情報委員会 内山副委員長

今月号は6人の会員の卓話がありましたので、8頁となっております。編集は丸山副委員長が担当しました。ホームページへのアクセス数は634件でした。

(2) 会員・研修委員会 池田委員長

10月26日に新入会員歓迎会を開催します。詳細については10月例会でご案内します。

(3) 地域奉仕委員会 馬場委員長

「合唱応援祭り」(仮称)は、参加校集めに苦戦中ですが、その概況を記します。

なお10月中旬には、南大沢文化会館の施設利用料(約10万円)を払い込む予定です。

① 「合唱祭」参加校(目標 8校以上)決定=6校
現在の参加校は8月例会報告から2校増(*)。

小学校は3校

第一小学校、上柚木小学校、由木西小学校*

中学校は3校

梶田中学校、第七中学校、南多摩中等教育学校

② 最低2校の参加校追加に向けての活動

その一は、合唱部(コーラス部)がある私立中学校2校へアプローチしている。

その二は、八王子市立中学校の音楽教科担当教諭・研修会で再募集をする。

③ 見通しと対応策(案)

8校以上の参加があれば「合唱祭」は実施する。

7校以下の場合は招待校を加えることも検討したい。

(4) 交流担当 一瀬担当理事

来年の五所川原での全日本の総会・大会への東京八王子プロバスとしての旅行に関して、チームリーダーをお願いしていた飯田さんが体調を崩していましたが9月25日に退院予定です。もうちょっと様子を見て対応を考えます。大会参加費は立佞武多鑑賞を含めて15,000円となりました。旅行社には既に立川さんに接触してもらっています。東京日野プロバスを含めて17名で仮予約しています。12月には参加者全員の打ち合わせを予定しています。

8. 全日本プロバス協議会 一瀬幹事長

昨日大阪プロバスクラブ例会に日帰りで田中会長とお邪魔してきました。7つ目のクラブ訪問です。会員数17名の大阪のど真ん中のクラブです。例会はワイン付きのフレンチで会場もおしゃれなホテルでした。卓話も「スペインのキリスト教聖地への巡礼のお話」とちょっと味わいの変った例会を楽しむことができ、二次会もワインで歓迎を受けました。

9月28日(木)に全日本の理事会を京王プラザで開催予定です。会則に基づく次期の全日本プロバス協議会の会長の選任が主要案件です。旭川プロバスクラブの馬場さんが会長に、中田さんが幹事長に内定しています。

9. 同好会報告

囲碁同好会 下山 邦夫

プロバスクラブ各趣味の会の紹介で囲碁同好会を担当する下山です。

私のプロバスクラブ入会は1999年ですが、囲碁の同好会は活動が始まっていました。南ロータリークラブの有志によって日本棋院の先生を1回/月出張していただいて、多面打ちの実戦をやっていただいて研鑽を積み始めているところでした。先生は当時囲碁界のみならず囲碁ファンならみんな知っている有名な稲葉俣子さんです。妙齢の美人の先生で、囲碁の勉強だけでなく先生に会うのが楽しみであった人が主だったかもしれません。プロバスクラブ内の同好会になっていくのは、先生がいなくとも優勝者

を出す戦いをやって実力向上を目指したいからでした。2000年ごろからは毎年優勝を出す大会をやるようになっていきます。

囲碁は爛柯の遊びと呼ぶ事がおおいです、中国で樵が森に入り子供が打っている碁に魅せられ、斧の(柄)がくさる(爛れる)まで遊んで里に帰ると我が家もなかったという話が元になっている。他にも囲碁にまつわる教訓、言葉は多くあります。それだけ広く楽しまれたゲームだと思います。囲碁クラブが長く大勢の人と共に存在を続けるのは、囲碁が面白いからの一語に尽きるでしょう。

10. プロバス賛歌

起立、斉唱

11. 閉会

塚本副会長

本日は長時間にわたり例会へのご協力をありがとうございました。ハッピーコインの披露ではサッカー、バスケット、ラグビーの世界大会にて日本の選手の活躍で国民によるこびを持たせてくれました。それぞれの会員の皆さんの健康維持への具体的な実践努力紹介、また体調を崩された方が回復に向かっているとの本人からの喜びの声、会員仲間からの応援メッセージなど温かい心の便りがありました。

卓話は前回より会員の方々の中で進めましょうとの声に、今回は会員になって間もない泉道夫氏にお願いをいたしました。泉氏の独特の余韻を残す語り掛け方に笑いと、各自がそのことから脳裏に思いを浮かべ聴き入っていたと思います。幼き少年の頃の母親の一言が自分の人生、今73歳まで心にしっかりと根付き声の響きを持って、これまでの人生を送ってきた自分、健康の大切さ、生き方、心と身体の両立の健康への精進の仕方等々の示唆を会員に話し、今はテニスやゴルフを楽しみ、喜び、人生を送っているという話を。「今日は母の命日です」の言葉に母と道夫さんの強い絆を感じた。

同好会活動では囲碁同好会の様子を、そして会への呼びかけを。その他としまして岩島会員から10月8日に「Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会」主催のDr. 肥沼バースデーフェスタがあること、そこにシニアダンディーズが出演する。このイベントへの参加を呼びかけ、行きましょう。

本日は皆さんにとって有意義な時間となっていただけでしょうか。これを持って9月の例会を終了いたします。



◆今日はつたないお話しをさせていただきます。よろしくお願ひ致します。 泉 道夫

◆一瀬幹事長のアレンジで全国のプロバスクラブ訪問を続けています。月に一回のペースですが、楽しみです。 田中 信昭

◆今期もよろしくお願ひします。 戸田 弘文

◆3年もの長い間、コロナ禍のために私達の体力が弱まり、免疫力が低下したのでしょうか。私の周りにもコロナ、インフルエンザ、熱中症などにかかる人が未だに居ます。是非皆さん注意してください！私は毎日5000歩歩いて体力維持に努めています。やはり健康は全ての源です。身体を動かしてHappy!!

持田 律三

◆9月28日に全日本プロバス協議会の理事会を八王子京王プラザホテルで開催予定です。次期会長を決めるのが重要議題です。 一瀬 明

◆飯田さん、今月25日に退院が決まりました。今期復帰を目指して、懸命にリハビリに励んでおられる姿に感銘を受けます。 一瀬 明

◆今月の末で80歳になります。昨日の俳句の会は最後の70代となりました。これで俳句の会は全て80代以上のメンバーとなります。 野口 浩平

◆今月は、U-18世界野球の優勝とワールドカップラグビーの第1戦勝利を楽しませて貰いました。ラグビーの予選突破を願っています。 馬場 征彦

◆この度は、ご心配、ご迷惑をお掛けしました。皆様からお励みのお手紙、お電話を頂戴いたし有り難うございました。お陰さまを持ちまして腰部脊椎管狭窄症にて入院、手術しまして、この度退院致しました。まだコルセットを装着し、リハビリに頑張っております。筋力低下など本調子ではありませんが、回復まで時間を要しますので、今後とも宜敷くお願ひ申し上げます。皆々様もご健康にお気をつけてご自愛ください。 岡本 宝蔵

◆大病をした家内が、やっと少し元気になりほっとしています。プロバスの皆様もくれぐれも健康に留

意され、特に秋冷の候になった時に気を付けろとよく言われます。

土井 俊玄

◆ようやく涼気が感じられるようになりました。秋のお出かけが楽しみです。

有泉 裕子

◆バスケットボールにサッカー、ラグビーと日本のスポーツ界も随分強くなったものです。頑張れ！日本！

山口 三郎



プロバス賛歌の生まれた時のこと

立川富美代

あと2年余りで当クラブも30周年を迎えます。この長い活動の間に創立当初から最近までの会員数の動きを調べて見ましたら、創立メンバー33名を含めてざっと延べ170名が入会して現在は48名です。会員と共に創立当初にクラブのシンボルとしてのマーク、フラッグ、そしてソング。プロバス創立準備会で着々と準備が出来ておりました。



ただ、クラブソングだけは初代会長故大野聖二氏が作詞をされただけで作曲が決まっておりました。準備が進む中で作詞者を探して欲しいと私が作曲者の依頼を受けました。当時市内のアマチュアオケのお世話をしておりましたので、すぐに見つけることが出来ました。国立音大の石井亨教授です。石井先生は社歌、校歌等多数作詞・作曲しておられます。市内では「みなみ野小学校校歌」。孫の運動会に行き見つけました。

早速大野氏の了解を頂き石井先生にお願いをしましたところ、大変古い表現の歌詞で、今後何十年も歌うのに向いていないとの言葉で補作させて下さいとのこと、大野氏に了解を得て補作、作曲をお願いしました。出来上がったのを見て大野氏が「僕の作詞が大変身だ」と言われましたが、大野氏のプロバスの理念は充分伝わるからと申し上げて了解して頂きました。明るくて軽快な作曲で、シンセサイザーの伴奏はとても歌いやすく毎月の例会の終りにメンバーが楽しく歌いました。

ところが、少し歌っているうちに、歌詞の1か所がクラブソングとして似つかわしくないとの意見が

出て検討し、会員がそれぞれの歌詞を出して故加藤寛会員の歌詞に決まりました。それが現在歌っているプロバス賛歌です。

2番の歌詞の頭で最初は「夢をなくした……」を「平和かかげて……」にしました。

入会会員総数もですが、ざっくり数えて約300回以上歌ってきたことになりすね。

現在の伴奏ですが、クラブ創立10周年に「陸上自衛隊東部方面音楽隊」の演奏会を開催いたしました。其の時に「プロバス賛歌」も演奏して頂きメンバー全員八王子市民会館で合唱いたしました。演奏が終わってから音楽隊の隊長から伴奏のテープを頂きました。カラオケと女性隊員のソロの入ったテープです。以来18年間日本の自衛隊音楽隊の演奏する素晴らしい伴奏で毎月歌っているのです。全プロビアンに自慢したい日本一のクラブソングだと思います。

もう一つエピソードです。エルシィのホワイトボードに張り出しているプロバス賛歌ですが、手書きの歌詞で落款まで押してあります。これは第4代会長故田子稔氏の書かれたものです。今後何年でも皆さんに見て頂ける様にとパウチしました。新しく入会されたメンバーも安心して歌えますね。ちなみに田子氏は書道の師範でした。

プロバス賛歌の誕生には色々な過程がありましたが、プロバスクラブの理念が十分に読み込まれており、八王子プロバスクラブのメンバーとして誇りを持って歌いましょう。

プロバス賛歌の誕生に関わったメンバーも28年過ぎて2人になりましたが、健康である限り歌い続けたいですね。

久しぶりに縄文の旅 「三内丸山遺跡」

池田 ときえ

夏の終わりを待って、縄文の旅を再開しました。目指すは三内丸山遺跡です。コロナ禍その他で長らく遠出ができませんでしたが、そろそろいいかな。

ご存知のように、三内丸山遺跡を含めた北海道・北東北の縄文遺跡が世界文化遺産に認定されました。東アジア最古の土器(15000年前)が発見された青森の大平山元遺跡をはじめ17カ所の遺跡と2カ所の関連資産です。今までは足を延ばししやすい関東・中部・新潟を中心に縄文土器を見て回っていましたが、

たまたま機会に恵まれたので思い切って青森へ。

三内丸山遺跡は縄文前期中頃に始まり、中期中頃に栄え、中期末には衰えたようです。

シンボルにふさわしく6本柱の復元遺構は堂々とそびえています。用途についてはトーテムポール、神殿、見張り台、天文台など様々な説がありますが、柱の太さから高樓になりました。



柱の配列は夏至の日の出、冬至の日の入りが望める角度になっているそうです。本体は未完成とのこと、スペイン、ガウディのサグラダファミリアを想起しますね。

遺構に残っていた樹根は直径1メートルを越えると、樹齢何百年の栗の木です。周辺はおおかた栗の林。貴重な食糧源だったのでしょう。本来黒い木肌が白いのは保護のため、水溶性ガラスを混ぜた塗料で防水しているからだそう。資料保護のため見えない所に数々の工夫があるようです。

大型堅穴住居には、大きくなった定住集団生活の規模と規律を感じます。居住とは違う共同の作業・活動が行われていたのでしょうか。

広い野原に点々と見える家族用と思える復元堅穴住居。その中に地元の小学生が実習で作った2棟の可愛らしい堅穴住居もありました。



俳句同好会便り

私の一句〈九月の句会から〉

河合 和郎

観測史上最も高温な夏が終わった。句友の作品にも酷暑の夏を詠んだ作品が多かった。その中から幾つかを照会します。

大台風天に通せり水の道

下山 邦夫

「線状降水帯」という気象用語が毎日の天気予報で流される時代になった。この句は夏の異常気象を大胆に詠んで成功している。

半ズボン人目を避けて散歩道

馬場 征彦

大人の半ズボン姿。涼し気な服装だが街中ではあまり見かけない。散歩に半ズボン姿で出かけたが、何となく人目が気になり、人気のない道を選んで歩いている姿が微笑ましい。

道化師の汗まみれなる化粧かな

野口 浩平

これも今年の異常な夏の暑さの一場面である。ピエロ独特なあの化粧が汗まみれになって崩れてしまっている様子。異常な暑さはピエロの演技まで泣かせることになった。

そうなのよいつも暑い秋彼岸

池田ときえ

秋の彼岸過ぎにも夏日があった日本列島。「暑さ寒さも彼岸まで」の常識が急速な温暖化によってすっかりおかしくなってしまった。

夕立あと極楽からの余り風

田中 信昭

酷暑が続いたある日の夕立。その後のほっとするような涼しさのひと時。「極楽からの余り風」とは心地よさを表した巧みな表現。

風のみち光のみちや萩の道

河合 和郎

「道」の兼題句。鎌倉の萩寺に見られるように、萩の花は一見地味だが光や風の具合では華やかに輝く花でもある。紫や白い花が波のように風に揺れる光景は殊の外艶やかな花でもある。

編集後記

今月号は、会員お二人の寄稿を掲載しましたので6頁となりました。

情報 丸山

